

生き活きレポート

http://komae.seikatsusha.net
e-mail komanet.seikatsusha@nifty.com

生活者ネットワークの3つのルール
1.議員は交代制
2.議員報酬は市民の政治活動資金に
3選挙はカンパとボランティアで。



ポストコロナの課題2 ●
防災の眼をもってまちを歩いてみよう! ●
まつざき淑子の議会報告 ●

コロナでより顕在化した生活の不安定さ

～基本的人権とも言われる医、職・食、住、人のつながりを失う～

狛江市には、「さまざまな理由から生活にお困りの方」「生活、仕事、健康、お金、家族のことで悩んでいる方」を対象とした相談窓口として「こま YELL(エール)」があります。

殺到した相談者

コロナ禍やそれに伴う緊急事態宣言等によって飲食業やサービス業、スポーツジム、芸術や様々なジャンルの文化活動などが大きな影響を受けました。自営業者やフリーランスをはじめ、休業要請を受ける職場で働くアルバイトやパート、派遣や契約社員の方々です。今年4月厚労省は昨年度のコロナによる失業者は10万人を超えると発表しました。実際には失業者はもっと多いとみられています。昨年度「こま YELL」の相談件数は958件(一昨年は205件。)新規相談申込者は640件。ハローワーク、社会福祉協議会、フードバンクなど他機関につないだり、支援のためのアクセスを実施し、市が支援を継続しているのは100件余り。単身の20代、30代の若い世代が多く、40代、50代が続き、外国籍の方の相談も増加。

相談内容

相談の内容は収入や生活費の減少という経済的困窮、求職はもちろんのこと、収入減が直撃した家賃・住宅ローンの支払いについてが多かったとのこと。住宅確保給付金の新規申請は331件にものぼり、延長、再延長、再々延長する方たちも数多く見られました。新規の生活保護申請件数は思いのほか少なく、就労先が確保でき、当座の生活費の目途が付けば相談者も減少します。が、コロナで顕在化した非正規労働者、エッセンシャルワーカーの低賃金や支援のなさなど働き方の不安定さや、給付延長終了後の居住支援不足などセーフティネットの構築や貧困・格差の根本的な解決には至っていないと感じます。なかなか相談窓口や包括的支援にまで到達しにくいDV被害者や孤独や孤立、メンタルヘルスの不調に対しても手立てが求められます。相談内容をしっかり分析して国や自治体の施策に反映させて行くことが必要です。

ゆるやかなつながりをつくる市民の活動

収入が減収になって切り詰めるのは食費がトップです。報道される大人食堂やフード

パントリーなどではこれまでとは違い、女性や、若者、親子連れも目立ちます。

狛江市にはNPO法人フードバンク狛江*があり、こま YELL等の要請にも応え生活が困窮している方たちに食品のおすそわけを実施しています。昨年度の利用者は一昨年に比較して約2倍になっており、単身者、若者、家族のある人の利用が増えているそうです。

民間企業や生協、市民からの食品の寄贈、寄付を受けて、市民のボランティアが仕分けや発送を担っています。

*フードバンク狛江 03-5497-0272(月・木 13時~17時)

またごはんと居場所の活動を行う市内の市民活動団体が、低額(こどもは無料のところが多い)で食事の提供も行っています。安心できる居場所を見つけてみませんか。



公民館閉館中も屋外でごはん和居場所活動

地域のみなさんと

防災マップづくりにも挑戦

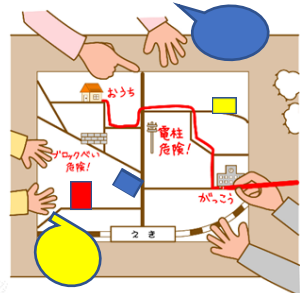
今春、南部地域センターでの防災まち歩きセミナー(防災マップづくり)全2回に参加。講師指導のもと、猪方・駒井在住の市民が4班に分かれ、まずゼンリンの地図を貼り合わせて地域の拡大地図を作成。道路、学校、公園、商店などマーカーで着色。次に歩く

「自分で見分けること、行政に要望することを見分けて、我々が被害者にも助け手にもなります」との言葉に納得。防災まち歩きの「町内会への展開」や「次世代への伝達」を実行しているかねばと実感!

ルートを決めて実踏。気付いたものや周囲の様子を沢山メモ。カメラもフル活用。参加者同士の会話も大切。そして地図に新たに得た情報と写真を加え、三色の付箋(赤:危険箇所、黄:要注意箇所、青:お勧めの箇所)も貼る。しかも「何らかの災害を想定し、どう対処するかをシナリオ化しつつ発表して下さい」との指示。班毎に披露し、他班からの意見や感想も付箋で貼られ、それも参考に自分たちの地図と発表を再検討して、全過程を終えた。

辻々の街頭消火器、土のうのある公園、防災無線、井戸のある家、防火水槽(素人では使えない)、廃屋、電柱には想定される浸水深表示板(実際の高さにも赤で記してほしい)、消防車が入れない狭い道路、通学路のブロック塀、一段低い土地等々...

「自分で見分けること、行政に要望することを見分けて、我々が被害者にも助け手にもなります」との言葉に納得。防災まち歩きの「町内会への展開」や「次世代への伝達」を実行しているかねばと実感!



安心を分かち合う 防災まち歩き
猪方在住 横山万里

まちを歩いて見えてきたこと

郵便はがき
料金受取人払郵便
狛江局承認
668
差出有効期限
令和3年10月
31日まで
狛江市東和泉1-1-25
松崎ビル101
狛江・生活者ネットワーク
まつざき 淑子 行
住所 _____ 電話 _____
氏名 _____
年代 ~19・20 30 40 50 60 70 80代以上
 生き活きレポート(無料)の定期的郵送を希望
します。

◆2021年6月議会報告

5月21日から6月16日まで第2回定例会が開かれました。

補正予算を可決しました

◆生活支援特別給付金の支給

長引くコロナの影響対策として、非課税子育て世帯の子ども1人につき5万円の生活支援特別給付金が支給されます。一人親家庭は4月に、2人親家庭は7月に振込、今年に入り非課税水準になった世帯は申請により支給されます。

・非課税者と困窮一人親家庭の児童に一人当たり5000円分の生活応援プレミアム商品券の配布を決定。8月発送予定です。

♥生理用品の配布

市役所2階こまYELL窓口にて生理用品(夜用+昼用で1パックずつ)無料で配布しています。公共施設の女子トイレなどにポスターを貼ってお知らせしています。

・東京都出産応援事業として、2021年1月～2023年3月31日生まれの赤ちゃんに10万円分の子育て金券が配布されます。

◆中学校部活動指導員の増員

東京都予算により中学校部活動指導員が13名に増えます。

♣エコルマホールと地下駐車場の改修

エコルマホールと狛江駅北口地下駐車場の改修工事事業者契約を承認しました。老朽化対応とおむつ替え・授乳スペースの新設、駐車場は利用状況と経費削減から機械式を廃止、すべて平置きになります。リニューアルオープンは2022年12月予定です。

●「直ちにオリンピック・パラリンピックの中止を決断し、コロナ収束に全力を求める意見書」に賛成しましたが、賛成少数で否決

●「女子差別撤廃条約選択議定書の批准に向けた環境整備を求める意見書」に賛成し、賛成多数で可決

◆狛江市議会議員 まつざき淑子の一般質問

1. 狛江の緑を守る計画について

～一人当たりの公園面積は三多摩で最下位
指定解除する生産緑地の公有化を！

狛江市の緑地率は22.73%。農地が減り、市街化が進み、「水と緑のまち狛江」の緑の保全は大きな課題です。「2022年問題」とは、畑等が1992年に税制優遇などを受けられる生産緑地に指定されてから30年経ち、そのうちの8割が来年度指定解除すると予想されるからです。行政が買取れない場合、民間不動産に一気に売却されることが懸念されます。2017年に防災・環境面などから都市農地の重要性が再認識され「特定生産緑地制度(優遇の延長)」が創設され、狛江市でも多くの生産緑地が移行したことが確認できました。市が生産緑地を買い取り整備する計画としては白井塚公園と駒井町公園があります。東京都の人口一人当たりの平均公園面積(2019)は5.37㎡(市部平均は7.64㎡)ですが、狛江市は1.55㎡で、市部で最下位、23区と合わせても少ないほうから三番目であることは深刻な問題です。営農が困難になった生産緑地は都の補助金や緑化基金を活用して、市民農園や公園の種地として買い取り、緑を守っていく積極的かつ具体的な計画を立てることを要望しました。今年度策定予定の新都市計画マスタープランに盛り込むとのことでした。

2. HPV(ヒトパピローウイルス・子宮頸がん)ワクチンについて

～情報提供と学校・家庭での話し合いを

昨年9月と本年5月、高校1年の女兒家庭にHPVワクチンの案内が送付されました。2013年4月に子宮頸がんワクチンは公費で定期接種となりましたが、重篤な副反応報告が相次ぎ、わずか2ヶ月後の6月に厚生労働省はこのワクチンの積極的勧奨を中止。その後ワクチンの改善も、様々な副反応の治療法もなく、被害者への賠償も不十分のまま、厚労省は昨年秋自治体に案内送付を要請したのです。同封の新パンフレットには「勧奨中止」の記載がありません。狛江市は家庭でのワクチン接種を検討する機会提供とし、接種に必要な「予診票」は同封していません。市のホームページには国の勧奨中止を掲載、ワクチン接種を希望しなかった方へは子宮頸がん検診の案内が記されており、これは有効と考えます。2020年度高校1年女子332人中42人が1回目の接種を受けたとの報告がありました。子宮頸がんは前がん段階の早期発見と適切な治療で罹患率・死亡率を80%まで抑えられると言われています。若年から検診を受けやすい体制をつくるのが重要で、小樽市などの自己採取によるHPV検査の導入などを紹介しました。ワクチンのリスク(いまだ積極的勧奨中止であること)の情報を届けること、20歳代の定期検診受診率アップのための工夫を検討すること、そして、HPVは性感染症であることの周知と、自分と相手の心身を尊重するために学校教育の場で人権教育としての性教育の必要性を質しました。

お知らせ

夏休みこどもスペシャル
簡易はた織り機でコースター
をつくってみよう!!

マンガ、絵本、ボードゲーム、ちくちく縫いもできるよ

日時:8月14日(土)

10時30分～14時

会場:西河原公民館2階

学習室1

対象:18歳以下の方

定員:30人 要予約

参加費:無料

お昼にはワークス・コレクティブあじさいさんの特別のお弁当&デザート

アレルギーの方は要相談

申込 090-2251-0911

(ヤマグチ)みんなの居場所

<まつざき淑子の活動>

川崎市夢パークを視察
夢パークは子どもや若者が集う
学校外の育ちと学びの場
フリースペースたまりばの
西野博之さんと



G7前日狛江駅北口にて ▲
大勢の市民と脱炭素社会に向けて
Standing Action



◀フラワーデモに参加



狛江・生活者ネットワークは、皆様からのご意見をもとに予算要望や市への提案をしています。子育て・教育・介護・医療・環境・防災など、なんでも気になっていることをお寄せください。

